

5月2日 子ども20mSv基準撤回を求めた政府交渉 350名が参加



揺らぎ始めた基準-「20mSvは基準と認めていない」(安全委員会)

5月23日 文科省包囲の抗議行動へ



5月2日、参議院議員会館講堂で、子ども年20ミリシーベルト（mSv）基準の撤回を求めて政府交渉が行われた。主催4団体（グリーン・アクション、フクロウの会、美浜の会、FoE Japan）と、前日に結成された「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」からの参加者、首都圏、関西、九州などから集まった350名で、広い講堂は埋め尽くされ、熱気に満ちていた。この交渉は福島瑞穂議員の尽力により実現した。

今回の交渉は、4月12日に行った文科省・安全委員会との交渉の継続としてもたれ、その後小佐古参与の辞任、撤回を求める国内外の声が高まる中で行われた。交渉の冒頭では、20mSv撤回を求める緊急要請に賛同する、61か国から1,074団体および53,193人の電子署名が提出された。また、厚生労働省に対する、避難拡大や1mSv遵守を求める要求書への賛同署名も提出された（国内7,247名と211団体、海外から3,649名）。

そして、福島県からの参加者は、持参した学校の校庭の土を手渡した。文科省の基準値以内で「安全」だという土に測定器を当てると、激しい音が鳴り出し、38マイクロシーベルト/時という高い値を示した（文科省の基準では、測定点は地表から約50cm、1mで、3.8マイクロシーベルト/時を基準としている）。「福島の子ども達は、この土の上で遊んでいる。放射能まみれの土をこね、粉塵を吸い、なめては身体の中に取り込んでいる。その土をなめてください。あなたの子どもをその土で遊ばすことができますか」と福島之母は怒りの声をあげた。

4月19日に国が出したこの基準を巡って、交渉では具体的な追及が行われた。

#### ◆「20ミリシーベルトは基準として認めたわけではない」(安全委員会)

子ども年20mSv基準への批判が高まる中、交渉で安全委員会は「基準として認めたわけではない」と発言した。また、この基準を安全だとする専門家の名前を公表するよう求めたが、「安全委員会の委員全員及び決定過程に関わった専門家の中で、この20mSvを安全だとした専門家はいなかった」と答えた。社会的批判が高まる中、自らの責任を逃れるためにこのような発言をせざるを得ないところまで追いつめられている。もはやこの基準はガタガタになっている。

さらに、安全委員会は、原子力災害対策本部から助言依頼があって、「差し支えなし」との助言を出していた。助言依頼から実質1時間のスピード審議で、正式な委員会も開かず、議事録も存在しない会合で、正式な決定として助言を出したという（しかし、この会合の正当性については、後日5月6日の安全委員会の回答で法的根拠がないことが明らかになった）。

#### ◆自治体が独自に進める除染作業に「ブレーキはかけないが、やる必要はない」(文科省)

郡山市は、自主的に汚染された校庭の土を除去する作業を開始していた。これに対して文科大臣は「やる必要はない」と発言し地元を中心に批判の声があがっていた。今回の基準の根拠としたICRPの勧告でも、「できる限り低く・・・」となっている。この問題について交渉で文科省

は、「自治体がやることにブレーキはかけない」と言いながら、「しかしやる必要はない」と繰り返した。「除去した汚染土の持って行き場がない」と本音を語ると、参加者からは「原発を推進してきた東電と国の責任で管理するべき」「東電に引き取らせよ」と激しく批判した。「低減策は必要だろう」と問われると、「モニタリングは実施する」と繰り返すばかりで、具体的な低減策さえ取ろうとしない文科省に批判が集中した。

文科省と安全委員会は同席する形で交渉が行われた。上記のように、安全委員会事務局が「20mSvは基準として認めていない」と発言すると、文科省は内心で「いったいどうなっているんだ安全委員会」と思ったか、間をおきながら、「基準としている」と発言し、足並みの乱れを露呈していた。また子どもと大人では区別が必要ではないかという問題について、安全委員会はその必要性を認めたが、文科省は「ICRPは区別していない」としてここでも食い違っていた。

#### ◆「放射線管理区域で子どもを遊ばせてはならない」しかし、放射線管理区域と同じレベル以上の福島の学校校庭で子どもを遊ばせることの是非は答えず。(厚生労働省)

厚労省は保育所を管轄している。福島県内の保育所に対し、文科省同様に20mSv基準を通過していた。他方で厚労省に直接関係する労働基準法では、放射線管理区域で18才未満の労働を禁じている。今回の基準3.8マイクロシーベルト/時は、放射線管理区域(0.6マイクロシーベルト/時以上)の約6倍にもなる。また、放射線管理区域のレベルを超える学校などは、福島県内で全体の約75%にも達している。



このような実態を踏まえ、交渉では福島から参加した人達が、「放射線管理区域で子どもを遊ばしてもいいのか」と問うた。これに対して厚労省は、「それはあつてはならないこと」と直ぐに回答。「それでは、放射線管理区域と同レベル以上の校庭で遊ぶことは許されるのか」と問うと、これには一切答えずに「基準を守っておれば影響は・・・」と語るだけだった。とりわけ幼児は放射線の影響を受けやすい。そのため、なんとしても基準を撤回するよう求めた。

#### ◆5月23日 文科省包囲行動へ

5月2日の交渉は、YouTube等でも配信され多くの人たちが国の無責任さに怒り、この基準がもはや正当性をもたないことを実感している。テレビでも批判的な番組が出始めている。交渉の結果を受け、第2弾の署名も開始された。この基準の撤回と被ばく低減措置を取ることを求めている。また国会議員の署名集めが、FoE Japanを中心に進められている。

次は5月23日に、「子ども20ミリシーベルトを撤回せよ！ 福島の子どもたちを守れ！」を合い言葉に文科省包囲行動が行われる。福島からはバスをしたてて怒れる父母達が参加する。全国から結集しよう。福島の人たちと連携して、子ども年20mSv基準を撤回に追い込もう。

#### ★5月23日 文科省包囲行動★

13:00 文科省前集合 福島からの代表団到着

13:30 文部科学大臣への要請(交渉中) 同時に(文科省外にて)要請行動 [その後移動]

15:30~16:30 院内集会「福島の子どもたちを守れ！」(参議院議員会館 講堂)

【主催】子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

【共催】グリーン・アクション、原子力資料情報室、フクロウの会、美浜の会、国際環境 NGO FoE Japan

【協力】脱原発と新しいエネルギー政策を実現する会(eシフト)、プルトニウムなんていらぬよ！東京